

タイトル画面 →

県下の全体図スライ

はじめに

現在、県内に障害を持つ子供たちが通う特別支援学校は、
盲学校・聾学校を含め、鹿児島県内に15校あります。

(鹿児島大学付属特別支援学校を含めると16校になります。)

このうち15校の特別支援学校の用務員は事務補助や営繕等の
他に主として、介助をうけもつ職員がいます。

勤務表

さて、介助の仕事とは一体どんなものがあり、どんなことをして
いるのか。ご存知ない方も多いのではないのでしょうか。

学校によって様々な障害を持つ子供たちがいて、介助の内容も
いろいろですが、今回は、鹿児島養護学校（主に肢体不自由の学校
で、日々活躍奮闘している用務員の方の一日を紹介し、少しでも
介助の仕事を知っていただければと思います。

勤務表スライド

まず、一日の流れとしてこのようになっています。

勤務表
通学バスのスライド

1、通学バスについて

・説明・

鹿児島養護学校には、校内に通学バス検討委員会が設置されて
おります。お手元の添付資料1をごらんください。

※添付資料1 →
数秒、間をおいて
資料説明を

乗車の条件として、首が座っているか、体幹が安定しているか、
長時間の乗車に耐えられる体力があるか、発作等が安定している
かなど全体的に考慮し、場合によっては該当する児童・生徒の
主治医の意見も伺いながら決定されています。その後3～5日
の体験試乗を経て通学バスでの登下校が許可されています。

※添付資料2 →
数秒、間をおいて
資料説明を

次に資料2をご覧ください。バスの路線は、伊敷線と谷山線があります。今回紹介するのは谷山線の様子です。

VTRスタート

併せて、朝の通学バスの様子のVTRを紹介したいと思います。ご覧ください。

まず、谷山港にあるバスの車庫を出発します。

フィールドシートSTOP

各バス停での生徒の乗降りは、多いところで7名の生徒がいますが、その日の健康状態や連絡等を保護者から聞いてバスに乗車させます。

リフトの映像中Stop

本校のバスは車椅子で乗降りできるように、リフト付になっており、車内には5台まで車椅子のまま固定できるよう改造されています。そのため、各バス停はリフトが出せるようになるべく道幅が広く、段差の少ない所を選定しています。

次のバス停までの間、生徒一人一人と挨拶を交わしたり、わらべ歌をしたりしながら、スキンシップをとり健康状態や様子を見たりしています。全員乗車したら、朝の会をしています。

VTR終了後画面暗転

VTR終了後

学校到着後は各担任に朝の様子や保護者からの連絡等を伝え引継ぎます。そして車内の忘れ物の確認、座席の整理を済ませバス介助日誌に記入しています。

通学ポイントスラ
イダ

勤務表
授業介助スライド

2、授業介助について

・説明・

※添付資料3
数秒、間をおいて
資料説明を

本校では、年間を通して授業介助に入る時間割が決められており、主に小学部に入っています。お手元の資料3をご覧ください。

内容としては、体を動かす活動を主とした「わんぱくタイム」
絵画や工作といった活動を主とする「どきどきタイム」に担任の
補助として、生徒一人一人に合わせた介助を行います。

授業VTRスタート

今回紹介する授業は、「どきどきタイム」です。ご覧ください。
授業中は生徒の持つ能力や特性を生かせるように、先生達からの
アドバイスをもらいながら、楽しく学習に取り組めるようにサポ
ートしています。

次は、「わんぱくタイム」です。

VTR終了後画面暗転

VTR終了後

なお、介助中の突然の発作や体調の変化にも素早く対応できる
ように校内研修等を受け、養護教諭や常駐している看護師との連
携をとるなどし、緊急時の対応にも日々心掛けています。

授業ポイント

3、給食介助について

・説明・

子供達は自力での食事が困難のためマンツーマンの体制で給食介助が行われており、年度当初に担当児童が決められ1年間担当します。食事形態はミキサー食・きざみ食・一口大食・普通食と4つに分類されています。

給食VTRスタート

それでは、VTRをご覧ください。

紹介している子供の食事形態は一口大食です。メニューによって先生が摂食時にもっと小さくして介助しています。

特殊器具のVTR
中STOP

摂食時は生徒のペースに合わせた介助がなされ、少しでも手が動かせるのであればその能力を伸ばす介助の仕方やスプーンを握れなくても特殊スプーンで口まで持っていけるようにする等の支援を心掛けています。

VTR終了後
ポイントのスライド

本校では定期的に外部から講師を招き摂食指導の講習が行われており、摂食技術の向上、事故防止に努めています。

この給食介助の際も誤嚥・嘔吐等がないように体位や姿勢の角度にも気をつけながら食事介助がなされています。また、成長に伴い毎年見直しが行われ、食事形態の変更や使用するスプーン・特殊はし等器具についても成長に合わせた工夫がされています。

4、昼休みから下校の様子

この後、お昼休みになり、介助依頼がある場合は5・6時間目の介助もあります。そして下校となります。

バスに乗車し、各担任と協力して車椅子の固定やシートベルトの確認をしながら、その日の様子や体調などの連絡事項の引継ぎを行い学校を出発します。

車内では帰りの会をし、生徒達は下車するバス停までの間、友達と話したり、先生とわらべ歌遊びをしたりと自由な時間を過ごします。各バス停では保護者に各担任からの連絡事や一日の様子・体調など伝えてます。

最後にバスが車庫に着いたら、車内の忘れ物の確認や整理・清掃を済ませて勤務を終えます。

以上が一日の流れとなりますが、この介助の合間には、営繕や事務補助・環境整備等があり他の用務員と協力しながら行っています。

勤務表

トラブルのライド

5、通学バスでの避難訓練及び緊急時対応訓練

ここで、通学バス介助の際に起こるトラブルとして以上のことがあげられます。

・説明・

これらのトラブルに対応するため、まず年度初めに通学バスの避難訓練を登校時に校内で行っています。

マニュアルに基づき介助員と運転手だけで生徒を車外へ避難させる訓練で、パニックにならないように、また安全面に細心の注意を払いながら、一人一人を丁寧に下車させます。

VTRスタート

それではVTRをご覧ください。

避難の流れの説明

VTR終了後画面暗転

VTR終了後

以上、訓練の様子でした。この訓練では6分かかっていますが、消防の話によるとバスが完全に炎上する時間は3分くらいだと言います。安全面に注意しながらも早い避難を考えていかないといけないようです。

・次に通学バスでの緊急時対応訓練

・説明・

児童・生徒の障害の重度化・重複化に伴い、また介助員のスキルアップと研修を兼ねて、18年度から夏季休業中に通学路線上で緊急時対応訓練を行っています。

※添付資料4
数秒、間をおいて
資料説明を

添付資料4の対応マニュアルをご覧ください。

参加者は教諭、養護教諭、バス介助員です。

訓練は登下校のルートを走り、途中で一人の生徒が発作を起こすという想定で行われ、実際に119番へ訓練通報をし、救急車が通学バスに到着するまでの、対処の仕方や学校・保護者への連絡等を訓練しています。それではVTRをご覧ください。

VTRスタート

紹介している訓練は谷山線での訓練です。

車内には緊急医療カードが常駐しており、救急隊員に渡しています。

VTR終了後画面暗転

VTR終了後

訓練後はVTRを見ながら問題点や改善点を話し合い、対応マニュアルの再検討を行い、不測の事態に適切に対処できるよう研修を積んでいます。

6、おわりに

以上が特別支援学校における用務員の一日と緊急時の様子でした。今回は主に肢体不自由の学校を取り上げましたが、様々な障害・種別があり、他の特別支援学校とは一日の流れや業務に違いがありますが、私たちは児童生徒が安全で確実に登下校をし、学校では楽しく、のびのびと学習に取り組めるような環境作りや支援を心掛け、努力しています。今後の課題としては、重度化・重複化する障害への理解を深め、対応していくために様々な研修に参加する機会を与えていただき、自己の専門性を高め、予期せぬ事態にも落ち着いて、適切に対処する力を養わなければならないと強く感じています。今回こうした発表の場を設けて頂き有り難うございました。今後もこの夏季研修会を通し、各校の情報交換やスキルを上げ、日々の業務に生かしていけたらと思います。

ポイントのスライド

子供のスライド

これで発表を終わります。